

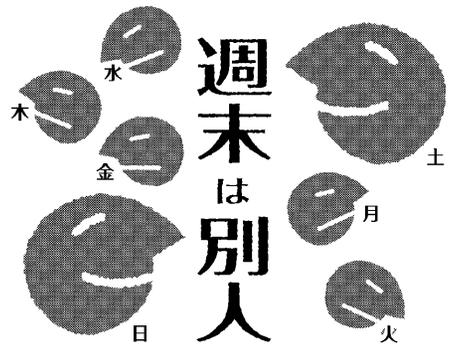
中学校でアコースティックギターに出会って以来楽器を弾き、通算150曲ほど作詞・作曲してきた。最近は何曲かをリメイクしており、人の心を温かくする曲にすることが目標だ。大学時代からのバンドメンバーとは、活動を再開しようとして話合っている。

フォークソング全盛の1970年代、東京・向島の中学で、同級生とフォークデュオを



荏原執行役員人事統括部長兼CHRO 佐藤 誉司氏

## 人の心を癒やす曲 届けたい



組んだ。吉田拓郎さんのコピーをしていたのが、高校でオリジナル曲を作り始めた。お互いの学校の学園祭で演奏して盛り上がった時、音楽の力や楽しさを感じた。

83年に千葉工業大学に入學し、バンド活動をしたいと考え、音楽サークルに入った。リズムとメロディーを両方弾くのでバンドに入りやすいと考え、ベースを選んだ。ロック、ポップスなどさまざま



自宅の部屋でのリメイク作業

ポピュラーな曲をリメイクして、4年時に今も続くバンドに入った。大学卒業後も20代後半まで、千葉県内のライブハウスで演奏していた。メンバー4人はそれぞれ仲は良くないが、音楽性が合っている。その後、バンド活動は中断し、昔作った曲のリメイクを始めた。ゼロから一を生むのも同じだ。中学での音楽との出会いが、責任ある仕事をさせてもらえていることにつながっている。

断っていたが、再開した。作りかけの曲が3曲あり、1曲はクリスマスソングにリメイクしている。新型コロナウイルスやウクライナ情勢で世界が揺れる中、癒やしの曲にしたい。人が生き生きと働くために、癒やしは大仕事だ。日々のビタミンプ剤になる曲を届けたい。

バンド活動を再開したら、オンラインで音源を制作するシステムを使う予定だ。4人で音を作ることはアートの楽しさだ。中学の同級生とも活動を再開しようとしている。